

1—111

1 (白紙)

2 (白紙)

3

伯耆国漂流人口書ノ覺

1 伯耆国米子<sup>与</sup>申所之村河市兵衛大屋

甚吉仕出之拾三端帆ノ船二艘<sup>ニ</sup>人数

五拾人乗、当年午ノ二月三日<sup>ニ</sup>本国出舟

同十三日隱岐国<sup>江</sup>着船四月六日<sup>ニ</sup>

彼所出帆、同八日竹嶋へ着船仕候事

1 船主村河市兵衛大屋甚吉儀御

4

朱印頂戴仕居、毎歳竹嶋へ船差渡

相調候物<sup>者</sup>ミちの魚之皮同油串鮑

<sup>ニ而</sup>御座候、則御朱印之写所持仕

罷有候事

1 国本よりハ右二艘之船<sup>ニ而</sup>竹嶋<sup>江</sup>渡り

於此所拾五端帆ノ舟壹艘作り

我々廿壹人ハ則十五端帆<sup>ニ</sup>乗<sup>ニ</sup>

5

艘<sup>ニ而</sup>七月三日彼島帰帆之節遭難

風、二艘之儀<sup>者</sup>何国<sup>江</sup>漂着仕候も不

存候、拙者共乗船ハ洋中<sup>ニ</sup>一夜漂罷

有、同五日之夜四ツ時分朝鮮国之

内ちやんぎり灘と申所<sup>江</sup>致漂着

於浦口船破損仕、夜ル之八ツ時分<sup>ニ</sup>

陸へ游上り居申候處<sup>ニ</sup>朝鮮人出合

6

我々手を引ちやんきりへ列参

宿老軒<sup>ニ</sup>三人宛召置候<sup>而</sup>粥を

振舞申候、此所<sup>ニ</sup>五日逗留仕候、家数

廿軒程相見へ申候、其内<sup>ニ</sup>地頭被罷越

切麦酒肴等振舞被申候、其後<sup>ニ</sup>

ちやんぎりの城下<sup>江</sup>被引越五日逗

留仕候、其間<sup>ニ</sup>両度酒肴振舞

7

被申候事

一 七月十五日ちやんきりを罷立、道中

せせんと申所之地頭より酒肴振舞被申候事

一 うるさんと申所<sup>江</sup>三日逗留仕候、此外

道中<sup>ニ</sup>泊り申候へとも所之名覚不申候事

一 同廿一日とくねぎへ参着仕候、其日

菓子酒肴振廻被申候、右之外逗留

8

中三度酒肴振舞御座候、此所<sup>ニ</sup>

逗留七月廿一日より拾月三日迄罷有候

同四日とくねぎよりさすとふと

申所へ罷越候、此時もとくねぎ地頭より

酒肴菓子振舞被申候事

一 七月六日より十月四日迄ハ朝鮮国より

扶持方塩噌肴薪等迄被下候御馳

9

走<sup>ニ而</sup>御座候事

一 拾月四日さすとふへ罷越候刻朝鮮へ

被召置候侍衆御出合我々生国并<sup>ニ</sup>

宗門手形諸道具等之儀迄念比<sup>ニ</sup>

御改被成其所より船<sup>ニ</sup>乗、侍衆御付

十月七日對州之内わにの浦と申

所へ着船仕、昨九日<sup>ニ</sup>爰元へ罷着申候事

10

人数廿七人宗門并歳付

一 浄土宗 檀那寺 伯耆国 大蓮寺 歳三拾五

上乘 二郎兵衛

一 禅宗 旦那寺 同国 安國寺 同三拾六

舟頭 太郎右衛門

一 同宗 旦那寺 同国 福巖院 同四拾

鉄砲打 久兵衛

一 同宗 旦那寺 同国 西福寺 同廿五

同役 又右衛門

一 浄土宗 旦那寺 同国 大蓮寺 同四拾二

かぢ 与三右衛門

一 同宗 旦那寺 隱岐国 浄土寺 同三拾七

あわひつき 太郎右衛門

11

一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同三拾六

同役 小作

一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同三拾二

同役 五郎作

一 真宗 檀那寺 伯耆国 万福寺 同三拾八

舟大工 長兵衛

一 禅宗 旦那寺 同国 法増寺 同廿九

棹取 傳助

一 同宗 旦那寺 同国 安国寺 同廿二 桶大工 久右衛門  
 一 真宗 旦那寺 同国 万福寺 同三拾九 水夫 作兵衛  
 一 法花宗 旦那寺 同国 本教寺 同廿二 同 十兵衛

12  
 一 禅宗 旦那寺 隱岐国 万泉寺 同廿九 同 作助  
 一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同五拾四 同 次郎左衛門  
 一 真宗 檀那寺 伯耆国 万福寺 同廿七 同 治兵衛  
 一 禅宗 旦那寺 同国 法増寺 同三拾二 同 角助  
 一 同宗 檀那寺 隱岐国 万泉寺 同四拾四 同 甚七  
 一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同廿九 同 九郎助  
 一 浄土宗 旦那寺 同国 浄土寺 同四拾 同 五助

13  
 一 同宗 旦那寺 同国 同寺 同三拾 同 彦八

右我々宗門寺請之儀本国出船之刻大屋  
 甚吉手前ニ留置宗門寺請を別紙ニ  
 相認船奉行横川次太夫方へ遣し船

奉行手前ニて相極往来切手出シ申候ヲ  
 請取出帆仕候、然所ニ船破損仕候刻

14  
 右之往来切手箱共ニ捨り申候故  
 所持不仕候、尤船ニ積候荷物船道具  
 之儀破損之刻捨り申候を朝鮮人

致人<sup>(ヤ)</sup> 念取揚給候品々御改被成候通ニ

御座候、已上

十月十日

15  
 右之趣船頭次郎兵衛<sup>公儀へ申上ル</sup>覚書  
 如件

寛文<sup>(虫損)</sup> 七<sup>未ノ</sup>年 大屋九右衛門

二月廿九日

右ノ表未ノ二月廿九日書之写

16 (白紙)